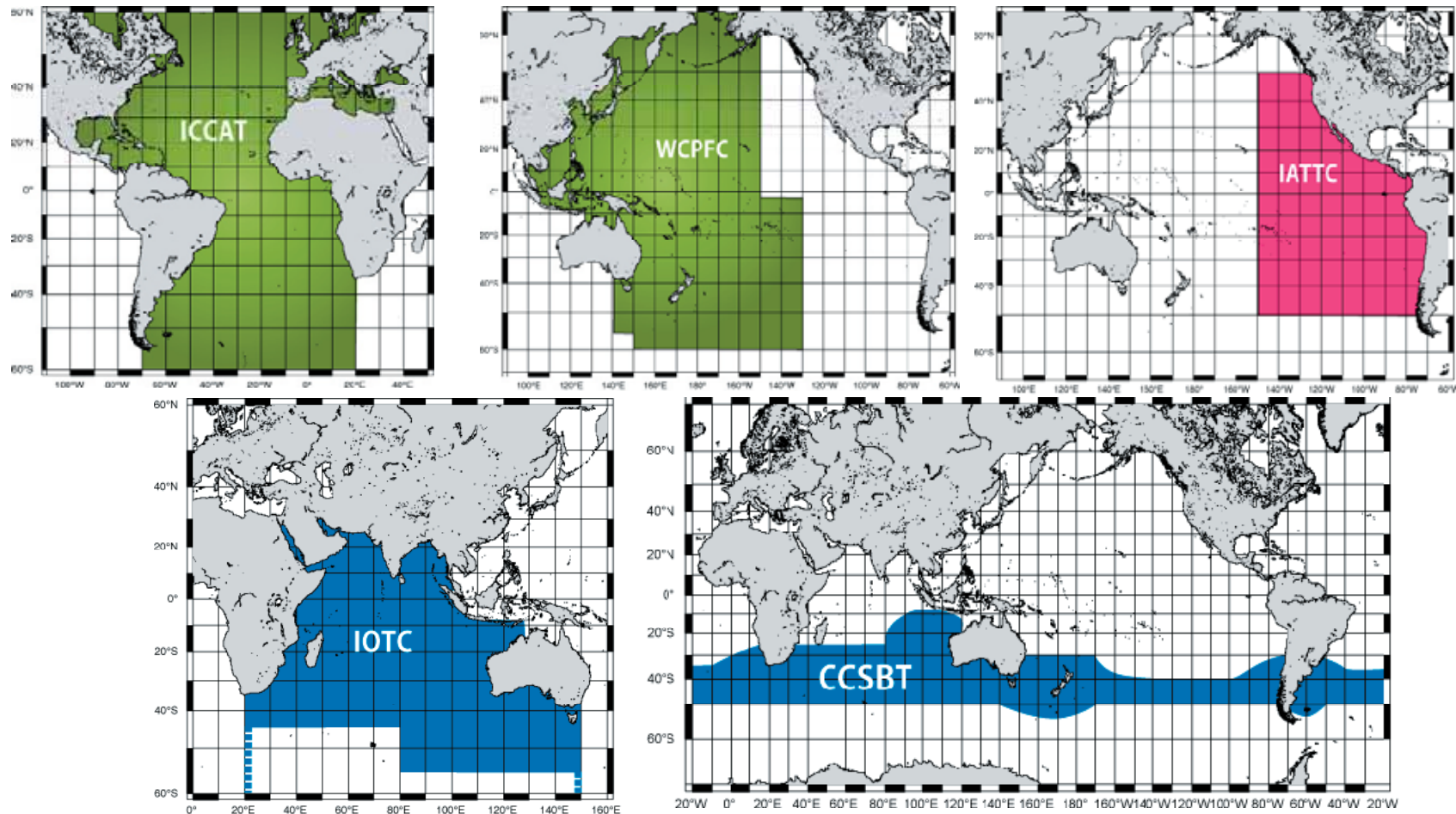


7-1. かつお・まぐろ類の地域漁業管理機関(RFMO) Tunas Regional Fisheries Management Organization

5つのRFMOが全世界の海洋を管理。我が国はすべてのRFMOに加盟。

RFMOは魚種ごとの資源状況等を踏まえ種々の資源管理措置を実施。

我が国にとって特に重要なのは、大西洋くろまぐろを管理する大西洋まぐろ類保存国際委員会(ICCAT)と我が国排他的経済水域を管理する中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)。



7 - 2 . R F M Oにおける主な規制措置



ICCAT (大西洋まぐろ類保存国際委員会)

<年次会合: 毎年11月開催>

東大西洋クロマグロの総漁獲可能量(TAC)の削減。
(2009年漁期:22,000t 2010年漁期:13,500t)
保存管理措置に反したクロマグロの輸出入の禁止と、蓄養の監視措置等クロマグロの管理を強化。
運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。
クロマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。



WCPFC (中西部太平洋まぐろ類委員会)

<年次会合: 毎年12月開催>

2010年の措置として、
メバチについて、
(a)まき網漁業においては、集魚装置を用いた操業の3カ月間禁止、太平洋島嶼国の排他的経済水域に囲まれた公海の禁漁。
(b)はえ縄においては、2001～2004年の平均値から漁獲量を20%削減。
クロマグロについて、漁獲努力量を2002～2004年水準より増大させないために必要な措置をとる。



IOTC (インド洋まぐろ類委員会)

<年次会合: 毎年3月開催>

メバチ、キハダについて、2007年～2011年の間、毎年の実操業隻数を2006年水準に制限。
ビンナガ、メカジギについて、2008年～2011年の間、毎年の実操業隻数を2007年水準に制限。
運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。



CCSBT (みなみまぐろ保存委員会)

<年次会合: 毎年10月開催>

ミナミマグロの総漁獲可能量(TAC)の削減。
(2009年漁期: 11,810t→2010年・2011年漁期: 9,449t×2)
運搬船へのオブザーバー乗船による、はえ縄漁船の洋上転載監視制度の導入。
ミナミマグロに対する漁獲証明制度(CDS)の導入。



IATTC (全米熱帯まぐろ類委員会)

<年次会合: 毎年6月開催(2010年は9月を予定)>

メバチ・キハダについて、以下の2010年の保存管理措置を2011～2013年に継続して実施。
【まき網漁業】(我が国漁船の操業なし)
全面禁漁措置(62日間)
沖合特定区での禁漁措置(1か月間)
【はえ縄漁業】(我が国漁船のメバチ漁獲実績14,785トン)
2007年のメバチ漁獲枠の5%減(我が国漁獲枠32,372トン)

RFMO合同会合

<第1回: 2007年1月(神戸)、第2回: 2009年6～7月(スペイン)>

各RFMOが以下の措置を緊急に採択するよう勧告。
世界的にマグロの漁獲能力(漁船数等)が過剰であるので、これを解決する措置をとる。ただし、沿岸途上国の漁業発展を害しないようこれを実施する。
管理措置を徹底するため、漁船位置管理システム、オブザーバー、漁獲証明制度等の監視取締措置を5つの地域漁業管理機関で統一性を図る。
マグロ漁業で混獲されるサメ、海鳥、海亀について協調した対策をとる。

2010年11月現在の情報です。
最新の会議結果についてはプレスリリースをご覧ください。